

楽しい思い、うれしい思い

12月になり、ツリーに飾りを付けたり、サンタクロースが登場する絵本や歌などに触れたりして子どもたちは、一人一人がサンタクロースへの思いやイメージを膨らませています。よい子にしていたら、寝ている間にサンタクロースがプレゼントを持ってきてくれると、どの子どもも知っているサンタクロースごっこが始まりました。

「せんせい、寝て」

さくら組の保育室で、積み木で家をつくって遊んでいる子どもたちや木の実をつかってお菓子をつくっている子どもたちに関わっている先生。そこへ○ちゃんがやってきて「せんせい、寝て」とつぶやきます。「え！？」と思いつつも、○ちゃんが何か思っているなど感じて、急にその場で寝たふりをする先生。するとそれを見て、○ちゃんは、木の枝や木の実を入れた紙袋をそっと先生のそばに置いて、その場を立ち去ります。そして少し離れたところから「せんせい、まだ寝てて」と自分の身を隠しながらも(実は丸見え)声を掛けます。ほんのしばらく、寝たふりをして目を開けた先生は、「あらあ！！」と大きな声でプレゼントに気づき、喜びの声を上げました。○ちゃんは、にっこりその様子を満足げに見ていました。

“ひげもつらなくっちゃ”

5歳児の子どもたちは、3歳児や4歳児の子どもたちにサンタクロースになってプレゼントを配ろうと思いついたようです。木の実を空き箱に入れて、箱が見えないようにと包装紙を重ね合わせ隙間のないように丁寧に包み、プレゼントは出来上りました。3歳児や4歳児が待っている！早くプレゼントを配ろうと急いで次々準備をしています。サンタクロースになるために、赤い帽子を色画用紙でつくり、赤い服も必要ということで、赤い不織布を体に巻いてさっそく出かけた△ちゃんたち。でも△ちゃんはそうだ！ひげも要ると気付きました。マスクの上に何かを付けるというのは、ちょっと違う。ひげは口の周りにあるもの。何がいいか…。いろいろと考えて、綿や白い画用紙を使って、手で持たなくてよいように紐をつけてひげをつくりました。準備が整い、鈴を鳴らして、1階の3歳児や4歳児のところへプレゼントを持って、降りていきました。

大好きな先生にプレゼントをしたい！先生を喜ばせたい！と思った○ちゃん。先生に寝てもらって、サンタクロースになってプレゼントを渡そうと考えました。サンタクロースは、プレゼントを置いていくだけで、その場にいてはいけないと思った○ちゃんは、離れたところで、こっそり先生の様子を見て喜んでいます。なんともほほえましい光景でしょう。ほんのひと時の関わりではありますが、先生に思いが通じ、うれしい気持ちを共有することで、先生との信頼関係が深まっていきます。

5歳児になると、3歳児や4歳児へプレゼントを渡すサンタクロースごっこ遊びを楽しもうとします。プレゼントをつくる時も、相手の顔や喜ぶ様子を思い浮かべながら丁寧に包装をしています。サンタクロースと思ってもらえるようにと、赤い帽子や赤い服、そして白いひげを付けて変装しなくてはと工夫をしています。本物らしく、誰が見てもサンタクロースとすぐにわかるようにと考えています。相手の思いを考えながら工夫を凝らし、一緒に楽しく遊びたい、うれしいと思ってくれると自分もうれしくなるそのような思いの5歳児のサンタクロースです。

サンタクロースごっこという夢が広がる遊びの中で、先生や友達と楽しい、うれしい気持ちが通い合います。この時期ならではの心が豊かになる遊びが幼稚園中に広がっています。